

アートはコミュニケーション

前人権擁護委員 藤林 文夫

コミュニケーションは、身振り、表情、言葉、文字、映像などによる『相互作用』であり、一方的な過程ではありません。自分が一方的に話をするのはコミュニケーションではなく、受け手である相手が反応することで初めてコミュニケーションと言えます。

その意味で、コミュニケーションは『キャッチボール』と同じであり、人間としての『生きる力』と言えます。人間関係は、コミュニケーションがあるからこそ成り立っているのではないのでしょうか。私たちは、それぞれ価値観の違いを理解し、お互いを思いやることにより、人間性豊かな生活を送ることができるのです。

今、コミュニケーションの重要性が、企業、学校、家庭、地域社会など様々な場面で言われています。新聞の社会面に掲載されている事件をみても、何故、もっと話し合いで解決ができなかったのかと思います。私たちは、本来、自分自身に身につけているはずのコミュニケーション力を改めて学び、人間力を高めるために何をしなければならないのでしょうか。

具体的に価値観の違いを典型的に表しているのは、アーティストが制作するアート作品だと思います。アート作品はアーティストの内的世界を表現しており、極めて独創的で創造、想像の賜と言えます。私たちがアート作品を鑑賞することは、アーティストとコミュニケーションをすることだと思います。自分自身と全く違う価値観を持ったアーティストの作品を鑑賞することで、自分自身と違った価値観の世界を体験することになります。また、同じアーティストの作品を、他の多くの鑑賞者とコミュニケーションすることで自分自身の考え方、感じ方をしっかり相手方に伝えると共に、他者がどのような受け止め方をし、どのような考え方をしているのかを聞くことで、お互いを認め合うと同時に自分自身が主体的に生きていくことに繋げることができると思います。

今、私たちが住んでいる地域社会は、国籍の違い、人種の違い、年齢差、男女、LGBT、障害児・者など様々な人が一緒に住んでいますが、差別のない多様性社会・ダイバーシティを実現することがとても大事であり、そのキーワードはコミュニケーションだと思います。

改めて、私たちは自分自身の人間性を高め、差別のない地域社会である多様性社会、ダイバーシティを実現するためにアートとコミュニケーションの関係に注目することが大事だと思います。